

「大雪旭岳湧水」の水汲み場、大きく広くなって大好評

「大雪旭岳湧水」の水汲み場（野花南）が大きく広くなって、9月2日から新たに目見えしました。来場客で連日大混雑していた水汲み場でしたが、これで余裕たっぷり。旭川市内から1カ月ぶりに訪れたというご夫婦は、ゆつたりスペースの新施設に「良くなったね」と話していました。

総額約4千万円で改修しました。水汲み口は3カ所から9カ所に3倍増。水が落下した時に四方に跳ねて足を濡らすことが多かった水の飛び跳ね防止に配慮して、新たに水受け台を設置しました。水の成分分析表も設けてあります。



駐車スペースは普通乗用車として2台増の16台分（うち福祉車両優先2台分）と大型バス2台分に拡張。敷地も千600平方メートル増の約2千500平方メートルに広くなりました。今までなかった公共トイレ棟も新設。水汲み口間近まで近づいていた車寄せを防止するための車止めも設置し、汲み取った水を移動しやすくする台車6台も常備しました。水汲み場は今年5月の連休時、今季最高の340台（昼間）を記録しました。土、日の週末には毎週のように、日中180台から240台の来場でにぎわっています。

アイアンマンレース世界選手権に向け今年も東川合宿で鋭気

トライアスリート塩野絵美選手（29）は東京ヴェルディ・トライアスロンセクションチームが今年も東川合宿にやってきました。

8月29日から9月21日まで3週間のロングラン合宿。昨年と一緒に練習した沢田愛里選手（28）、札幌、JR北海道、塩野選手の後輩、蔵本葵選手（21）、早稲田大、東京ヴェルディ・トライアスロンセクションチームも人も加わり、鋭気を養いました。

日本代表選手として4回目出場予定のアイアンマンレース世界選手権大会（10月10日、米国ハワイ州コナ）に向けた最終調整。昨年は自己最高15位に入賞し、今年はトップテン入りが狙いです。

バイク（自転車）150キロ、ラン（マラソン）20キロ、スイムなど、道北地方全域が練習舞台。「走りやすく最高」と高低差豊かなコースを疾走しました。

沢田選手は、9月26、27両日開かれたITU（国際トライアスロン連合）世界デュアスロン選手権ノースカロライナ大会（米国）の日本代表出場に向けて1週間の最終調整。デュアスロンとは、トライアスロン



町内をランニング練習する塩野選手（左）、蔵本選手（右）

株主制度で生まれた「株主の森」初の植樹に80人参加

9月9日、東3号北6線で「株主の森」植樹が行われました。

ひがしかわ株主制度で町の株主になった方や、東京札幌、旭川市内の東川出身の方を募って約80人が参加しました。初の「東川deエコ」ツアーです。



（標高千600）の旭岳ロープウェイ姿見駅周辺散策、キトウシ森林公園森の写真展「えぞ王国」の写真鑑賞をし、夕食はジンギスカンと東川産米のおにぎりに舌鼓を打ちました。

死亡事故ゼロへの誓い新た、秋の交通安全祈願祭

9月18日、町交通安全協会（藤田裕三会長）がコミュニティパーク（北町1）の交通安全観音像前で秋の交通安全祈願祭を行いました。

町内各団体、代表ら約80人が出席しました。松岡市郎町長は秋の輸送繁忙期を控え、交通事故防止取り組みへの願いを込めて「家庭から、地域から、学校から、職場から、ルールを守って交通事故のない町づくりをしましょう」



とあいさつ。藤田会長は「来年は物損交通事故を30%減らし、町民レベルで安全意識を高める活動したい」と呼びかけました。また町交通安全協会、東川ライオンズクラブのメンバーが街頭で缶ジュースなどを配ってドライバーに心のゆとりと安全運転を呼びかけました。

神饌田で抜穂祭

9月18日、東2号北1、三田常男さん（62）の水田で、北海道神宮神饌田の稲刈り「抜穂祭」が行われました。

ようやく恵まれた秋晴れの下、吉田源彦宮司の清めに続いて、12人の早乙女、介助役選ばれた6人の農業後継者の若者が黄金色に穂をたれた田に入りました。

稲刈り唄（うた）に合わせて早乙女が「ほしのゆめ」の稲穂を刈り取り、

奉納されます。



ひがしかわ株主制度4プロジェクトの1コース「エコプロジェクト」の「水と環境を守る森づくり事業」です。1年目の金額は目標の50万円を上回って178万円が集まり、今回植樹（うち150万円を使用）が実現しました。首都圏からの参加者のほかにも、稚内から「道の駅・道草館前に車中泊しました」という方も。この日は5合目